

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	四国大学
設置者名	学校法人四国大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本文学科				14	14	13	
	書道文化学科				14	14	13	
	国際文化学科				14	14	13	
経営情報学部	経営情報学科				18	18	13	
	メディア情報学科				16	16	13	
生活科学部	人間生活科学科				18	18	13	
	健康栄養学科 ^{※1} 管理栄養士養成課程 ^{※2}				13	13	13	
	児童学科				16	16	13	
看護学部	看護学科				13	13	13	
(備考) ※1… 令和4年度入学生から学科名称変更 ※2… 令和3年度以前入学生								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/syugaku/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四国大学
設置者名	学校法人四国大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/shikoku-u/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職 ・株式会社代表取締役社長	令和4年11月2日～令和7年11月1日	教育研究活動及び社会連携活動をはじめとする教学全般に関すること
非常勤	現職 ・社会福祉法人理事	令和5年6月1日～令和7年11月1日	法人における企画・法務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四国大学
設置者名	学校法人四国大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年度始めに、すべての授業科目の概略、到達目標、授業計画詳細、成績評価方法、授業時間外の対応(オフィスアワー)などについて、Webシラバスとして作成し、インターネットを介して学生に周知するとともに、学外の方からの参照を可能とし社会に公表している。 また、年に2回実施している「学生による授業評価」(授業改善アンケート)において、「シラバスに沿って適切に授業が行われたか(時間配分、講義内容・目的など)」が設けられており、このアンケート結果は担当教員にフィードバックされ、授業改善に役立てられている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.shikoku-u.ac.jp/education/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学業成績評価規則において、成績に関する評価項目(試験、受講態度、研究報告等)、授業出席回数に関する基準、評価点数と表示内容等について規定しており、その内容を履修要綱の中に明記するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。 各科目の担当教員においては、各授業科目のシラバスで示した評価方法により学修成果を100点満点の素点として評価し、前述の学業成績評価規則に基づいて、素点90～100点は「秀」、80～89点は「優」、70～79点は「良」、60～69点は「可」、59点未満及び出席不足は「不可」として成績を決定している。この成績が「可」以上の場合に、当該科目の学則に定められた単位数を修得済単位として認定している。また、教育支援課においても、授業回数や出席簿をチェックすることにより、適正な授業運営と成績評価が行われていることを確認している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学業成績評価規則において、GPAの具体的な計算ルールについて規定し、その内容を履修要綱の中に明記するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。

各科目の担当教員において評価・確定した成績評価結果をもとに、教育支援課においてGPAを一括計算している。そして、これらの成績評価結果やGPAは、成績通知表に記載されて学生に通知されている。

またGPAについては、定期的に学部・学科・学年別の分布を調査するとともに、教育改革推進委員会内にGPAに関する検討ワーキンググループを組織し、科目・教員間または学部・学科間のGPAの平準化や、それによる新たなGPAの活用方法について検討を行っている。令和元年度から、学部・学科間のGPAの平準化の一助とするため、絶対的相対評価プログラムを導入している。

評価の表示方法

素点	評 価		Q P I
90～100	秀	A (Excellent)	4.00
80～89	優	B (Good)	3.00
70～79	良	C (Satisfactory)	2.00
60～69	可	D (Passing)	1.00

※成績基準により、次の式を用いて総合評価を行う。

$QPI \times \text{科目の単位数} = \text{その科目のQP (評定値)}$

※GPA = $\frac{\text{取得した科目のQPの合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/syugaku/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則で大学の目的及び使命を定め、これに基づく各学部の教育目標を明示している。また、これらに基づく各学科の学位授与方針をディプロマポリシーとして定め、履修要綱の中に明示するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。また、学則及び学業成績評価規則に、成績評価や卒業認定の基準を規定し、その内容を履修要綱の中に明記するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。

これらの方針や基準は、履修要綱を通じて全教職員に、また学生に対しては学期始めに実施されるオリエンテーションや、チューター(指導教員)、学生サポートセンター等による履修指導等の場において周知している。そして卒業認定は、各学部教授会と評議会において、この方針や基準に従って審議・決定している。また、教育改革推進委員会、学部教授会、学部教員会議等において、これらの方針や基準の検証を行っており、検証の結果、見直しが必要と判断された場合は、その都度適切な見直しを行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/syugaku/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	四国大学
設置者名	学校法人四国大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/sonota/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/accredit/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部、経営情報学部、生活科学部、看護学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/kyoiku/)
(概要)
●文学部
・日本文化学科 日本語、日本文学及び日本文化について、その 歴史と現状を探求・理解し、そのよりよい担い手となる能力を身に付けるとともに、日本文化全般やその歴史にも視野を広げ、活躍できる人材を 育成する。
・書道文化学科 書写・書道の技法及び表現能力を錬磨し、あわせて書の歴史とその文化について書学の研鑽を深め、多方面にわたって活躍できる人材を育成 する。
・国際文化学科 多文化共生の時代に要請される広い視野と豊かな知識を有し、情報を正しく捉え、自己を表現し他と協調するために必要な英語力を備え、その知識や能力を社会で活かすことのできる人材を育成する。
●経営情報学部
・経営情報学科 企業経営、公共経営、流通、スポーツビジネスに 関する専門知識と情報処理能力を兼ね備え、課題の発見と解決方法を導き出し実践することで地域社会に貢献できる人材を育成する。
・メディア情報学科 経営学と情報学の諸分野についての専門的知識を習得し、それらを融合させて、ソフトウェアやデジタルコンテンツの創作及び IT 関連のビジネスを展開できる人材を育成する。
●生活科学部
・人間生活科学科 生活科学領域の専門知識と技術を修得し、人や社会を取り巻く諸課題を総合的にとらえ、健康で文化的な質の高い環境作りを行うことのできる実践力を備えた人材を育成する。
・健康栄養学科 食を通じて人々の健康を保持・増進するための高度な専門知識と技能を持つ人材を育成する。
・児童学科 子どもに関する専門的な知識と技術を総合的に学び、豊かな人間性と実践的指導力を備えた人材を育成する。

●看護学部

看護の基礎的知識・技術を修得し、常に変化向上する保健医療福祉に対応しようとする自己啓発力を高めることにより、地域社会の人々の健康促進に貢献できる看護専門職者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/diploma-policy/>)

(概要)

●文学部

・日本文学科

1. 社会人としてのマナーを身に付け、様々な情報を取得し、それらを適切に活用できる力
2. 専門的知識を深め、またグローバルな感覚を身につけ、そこから自己の課題を見出して目標を設定し、それに向かって向上をめざす力
3. 日本文学・日本文化に関する探究力と応用力、コミュニケーション力を身に付け、それらを地域社会で活かすことができる力
4. 日本文学・日本文化や歴史、日本語学、中国文学などの専門的知識及び自己を適切に表現できる文章力
5. 専門的知識や技法、表現力・思考力を通じて、豊かな人間性や規範意識を高める力

・書道文化学科

1. 社会人としてのマナーを身に付け、様々な情報を取得し、それらを適切に活用できる力
2. 書写・書道の多様な技法と豊かな表現能力を探究し向上をめざす力
3. 書に関する課題探究力と応用力、コミュニケーション力を身に付け、地域社会やグローバルな視点に立って活躍する力
4. 漢字・仮名・篆刻などの書に関する歴史と理論及び書に関連した文学、工芸などの専門知識
5. 書の専門的知識・技能を通じて、豊かな人間性や規範意識を高める力

・国際文化学科

1. 国際社会の動向を探究し続ける学修力・向上心を備え、自国の文化及び他の国々の文化に関する知識を身に付け、国際交流を促進することができる能力
2. 英語などの外国語の知識・技能を有し、それを活用することにより世界を巡る情報を正しく理解し分析する能力や、国際社会でのマナーに従いコミュニケーションを行う力
3. 国内外または地域社会において、国際社会に関する基礎知識や英語などの外国語技能を活用することにより、異文化間の問題に対してグローバルな視点から解決策を提示したり社会貢献を行うことができる力

●経営情報学部

・経営情報学科

1. 社会人として自立するために必要なコミュニケーション力や目標・課題設定力などの基礎的・基本的な力
2. 自己の向上のため、意欲を持って取り組み、技術や方法を身に付け、社会において絶えず努力する力
3. 社会において他者と協調するとともに、積極的に社会に貢献する力
4. 企業マネジメントに関する知識・技術とビジネスの世界に即座に対応できる力

5. 商品の生産から販売までの流通システムの知識とマーケティングに関する情報を活用できる力
6. 公的な職業に就くための基礎知識を修得した上で、公共経営のあり方を理解し、地域政策の企画・立案などによって地域に貢献できる力
7. スポーツ関連ビジネスの専門的な知識とスポーツに関する多様なサービスを提供できる力
8. 将来の確かな職業観、勤労観を基に、社会人、職業人として自立する力

・メディア情報学科

1. 社会人として自立するために必要なコミュニケーション力や目標・課題設定力などの基礎的・基本的な力
2. 自己の向上のため、意欲を持って取り組み、技術や方法を身に付け、社会において絶えず努力する力
3. 社会において他者と協調するとともに、積極的に社会に貢献する力
4. 経営と情報の両分野に関わる情報リテラシーや ICT スキルを身に付け、情報社会や情報産業で活用する力
5. 社会とのつながりを重視し、地域社会において課題を主体的に発見・解決する力
6. 情報社会の動きについて常に興味を持ち、的確に理解するとともに、ICT を用いたビジネスを展開する力
7. クリエイティブな感覚を磨き表現力を高めるとともに、ソフトウェアやデジタルコンテンツを創作する力
8. 将来の確かな職業観、勤労観を基に、社会人、職業人として自立する力

●生活科学部

・人間生活科学科

1. 社会人基礎力、自己教育力、人間・社会関係力を基礎とし、生活科学全般の学修につなげる力
2. 生活科学の知識と技術を身に付け、消費者教育を始めとする、生活全般の諸課題を解決し地域社会に貢献する力
3. 心理学やカウンセリングに関する専門知識を身に付け、公認心理師として学校や保健医療現場の実社会において対人支援する力
4. 養護保健に関する専門知識を身に付け、学校現場で教育に携わる力
5. 多様な生活文化とデザインに関する専門知識を身に付け、質の高い生活を創造する力
6. 将来の確かな職業観、勤労観を基に、社会人、職業人として自立する力

・健康栄養学科（令和4年度以降入学生）

1. 社会人としての基礎学習力と情報活用力を身に付け、さらに食と健康に関する専門知識と技能を有し、実社会において実践する力
2. 管理栄養士としての総合力を身に付け、人々の健康の保持増進に努め社会に貢献する力
3. 食を通じて人々の健康の保持・増進、疾病の予防・治療を目的とし、ライフステージに応じた課題を発見し、自ら探求し解決する力
4. スポーツ栄養学に関する専門知識を身に付け、人々の健康増進や競技能力向上に資する栄養学的課題を探求し、サポートする力
5. フードサイエンスや食文化に関する幅広い知識を身に付け、フードビジネスを総合的にデザインし、人々の食生活を豊かにする力

・管理栄養士養成課程（令和3年度以前入学生）

1. 社会人としての基礎学修力と情報活用力を身に付け、さらに食と健康に関する専門知識と技能を有し、実社会において実践する力
2. 人々の健康に関する課題を発見し、自ら探究し解決する力
3. 管理栄養士としての総合力を身に付け、人々の健康の保持増進に努め社会に貢献する力

・児童学科

1. 社会人としてのマナーやコミュニケーション力、表現力を身に付け、使命感や責任感を持って教育や保育に携わる力
2. 教育者・保育者として学び続け、他者との協働によって課題を解決するために情報収集し、分析する力
3. 教育・保育に関する豊かな専門知識と技術を身に付け、子どもを理解し実践的に指導する力
4. 自己研鑽しながら成長していく豊かな人間性を身に付け、教育や子育て支援・福祉を通じて地域社会に貢献する力

●看護学部

・看護学科

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や生命の尊厳・人権尊重の精神などの豊かな倫理観と良識を持って行動する力
2. 看護に必要な基礎的知識・技術を修得し、人々の健康維持と増進、予防、あるいは健康障害からの回復などさまざまな健康段階を系統的に捉え、生活に根ざした支援について柔軟に考えられる力
3. 保健医療福祉サービスにおいて、看護の役割と責務を自覚しチームの一員として行動する力
4. 広く社会に貢献するために、看護観の明確化や研究心・探究心を培い、自らの能力・専門性を高め、自己を振り返る力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/curriculum-policy/>）

（概要）

●文学部

・日本文学文化学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、専門科目の基礎となる日本文学・日本文化・語学及び文章表現法などの知識を幅広く学びます。

2年次では、全学共通科目の他、専門科目においても講義や演習を通じて研究、創作の方法を修得し、専門性を高めます。

3年次では、少人数教育により専門分野に関わる思考力や表現力をさらに高めます。併せて、教員免許や司書・学芸員の資格に関わる科目により就業力を身に付けます。

4年次では、卒業研究において4年間の学修を集大成し、自ら表現し発信する力を修得するとともに、教育実習や博物館実習などにより実践的な就業力を高めます。

2. 教育方法

全学共通科目及び専門科目では、講義科目、演習科目、実習科目の組み合わせにより教育を行います。特に日本文学文化学科では、主体的な学びの力を高めるために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式の演習科目を多く設けています。これらの科目は、カリキュラムマップ

に沿って順次的、段階的に学修します。また、学生一人ひとりのために学修履歴を記録できる自己教育力シートを作り、授業科目、課外活動、ボランティア活動、大学行事への参加等を記録し、チューターと情報を共有しながら学びを確かなものにしていきます。

3. 教育評価

学修成果の評価は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。シラバスにおいて各授業ごとの到達目標を示し、予め定められた成績評価方法により試験等を行い、科目到達度の評価を行います。期末試験以外の授業中の小テスト、小レポート、発表、グループワークでの内容等も、評価に含まれることがあります。同一シラバスで複数の教員が担当する科目については、教員間で基準を設定し、客観的に評価します。

・書道文化学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、書者・書道に関する基礎的な知識や技能を習得し、書道に係る歴史、文化の知識を身に着けるだけでなく、日本語学や日本文学、漢文学などの基礎的科目を幅広く学びます。

2年次では、書写・書道に関する知識・技能を高め、更に商業書道・デザイン書道分野の書の技法と精神を一般社会で活かす力を修得します。また日本文学についてもより専門的な科目（講読・演習）を履修します。

3年次では、少人数授業において専門性を深めるとともに、課題探究力と応用力を身に付け、思考力やコミュニケーション力を磨きます。

4年次では、卒業研究において専門性をより高め、併せて就職をサポートする科目により就業力を身に付けます。

2. 教育方法

講義・演習・実習などの方法により、カリキュラムマップに沿って教育を行います。多くの授業において、アクティブラーニングの考え方を取り入れた主体的で対話的な学びを実践し、自ら探究する力・創造する力などを養います。特に実習は「展覧会作品制作法」などにより、互いに研鑽し合うことで技法・精神面の成長を図るなど、協働的学修の場となっています。また、大学の書道文化研究センター内の豊富な資料を活用したり、学外の博物館と連携した指導を行うことで鑑賞眼を高めます。さらに、地域社会での展示活動を推進することで作品制作の意識づけをし、グローバルな視点をもって書道文化を発信する活動を行いながら幅広い表現力を身に付けていきます。

3. 教育評価

学修成果の評価と到達目標は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。予め定められた成績評価方法により試験等を行い、科目到達度の評価が行われます。

・国際文化学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目の四国大学スタンダード科目や初年次基礎科目と連動させながら、4年間の学びに必要なアカデミックスキルの修得を目指すとともに、グローバルな視点で世界の文化や歴史を理解するための基本的知識及び基本的な英語4技能を身に付けます。

2年次では、論理的思考力や豊かな表現力の養成に力点を置き、より深化したアカデミックスキルの修得を目指し、同時に発信力やコミュニケーション力としての英語力を身に付け、円滑な専門領域への導入を図ります。また原則全員参加の海外での語学研修により、異文化理解を深め英語運用能力を高めます。

3年次では、自らの興味や関心に基づき主体的に選んだ「専門ゼミナール」を中心に、ディスカッションやプレゼンテーションなどで学びを広げつつ、各自のキャリアデザインを形成するための専門性を高めたり、インターンシップを取り入れた科目等で就業力を身に付けます。

4年次では、4年間の集大成であり全学的な取り組みである学びの記録「自己教育力シート」の最終評価に繋がる「卒業研究」において、専門領域の知識や技能の発展・深化を図りながら、同時に地域社会や国際社会で貢献できる力を身に付けます。

2. 教育方法

学年ごとの「自己教育力シート」への記入や「四国大学スタンダード」などの全学的な取り組みと学科での専門教育を緊密に連携させ、カリキュラムマップの中での科目の位置づけを意識しながら授業を行います。講義・演習など授業形態に関わらず、全体的に教員と学生の双方向的な授業を展開し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングの手法を多く取り入れ、クリティカルで論理的に考える力や表現する力の養成を目指します。ネイティブの教員の授業は基本的に英語で行われます。英検・TOEIC等の外部試験への学生一人ひとりの取り組み状況などを全教員が情報共有し、国際語としての英語力の向上を目指し、継続的にサポートします。学生一人ひとりが主体的な学びの習慣を身に付けられるよう、授業の事前事後学修（予習・復習）の指導を強化し、さらにeラーニング等での自主学修を促します。

3. 教育評価

小テスト、期末テスト、レポート、振り返りシート、プレゼンテーション、グループワークでの貢献度などで学修成果を測定します。同一シラバスで複数の教員が同時展開する科目（「基礎ゼミナール」など）は、教員間で評価基準などを細かく設定し、評価の信頼性・客観性・公平性・透明性の向上を図ります。プレゼンテーションを行う科目等において、学修の到達度を測定するルーブリックを活用します。

●経営情報学部

・経営情報学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目の四国大学スタンダード科目などの修得とともに、4年間の学修の基盤となる経営学・会計学・経済学・情報学関連及び地域に関する基礎知識を身に付けます。

2年次では、全学共通科目の修得とあわせて、各コースの専門知識を学修するとともに、少人数のゼミナールによりマネジメント能力、情報通信技術やコミュニケーション力など社会人としての基礎的なスキルを身に付けます。

3年次では、各コースの専門性を深めるとともに、社会で実践する力を修得します。

4年次では、卒業研究において4年間の学修を集大成し、実社会で求められる目標・課題設定力及び課題解決能力を修得します。

2. 教育方法

講義に加えて、各コースあるいは各ゼミで基礎知識の修得を徹底するとともに、地元企業や地方自治体、地域住民と連携して実践的な教育を行います。

3. 教育評価

学修成果の評価は、期末試験をはじめ、課題の報告や発表、卒業研究の執筆と発表などを通して、総合的かつ多面的に実施します。特に、自主性と自らの創意工夫を高く評価することとします。

・メディア情報学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目の四国大学スタンダード科目などの修得とともに、専門科目のコンピュータとインターネット等の情報リテラシーを修得し、ビジネスに活用するための基礎的知識を身に付けます。

2年次では、全学共通科目の修得とともに、専門科目の演習や実習を通じてeビジネス、メディアデザイン、情報システムの専門的知識・技術を身に付け、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を修得します。

3年次では、専門科目の各コースの専門性を深め、地域社会の課題を解決するためのスキルを実践的に修得します。

4年次では、専門科目のプロジェクト演習や卒業研究において4年間の学修を集大成するとともに、実社会で求められる応用力を修得します。

2. 教育方法

講義や演習とともに、プロジェクトベースラーニング（一部アクティブラーニングを含む。）を踏まえたコース毎のプロジェクト演習や地域の題材を踏まえた卒業研究で、より実践的な教育を行います。

3. 教育評価

学修成果の評価は、期末試験をはじめ、課題の報告や発表、卒業論文の執筆と発表などを通して、総合的かつ多面的に実施します。特に、自らの自主性と創意工夫を高く評価することとします。

●生活科学部

・人間生活科学科

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、4年間の学修の基礎となる生活科学の基礎的な理論や心理学、デザインの基礎を身に付けます。

2年次では、各コースの専門基礎を学修し、コミュニケーション力、カウンセリング力及びデザインに関する表現力・実践力を身に付けます。

3年次では、各コースに係る専門知識を高めるとともに、少人数のゼミを通じて自らの課題を探究する力を修得します。

4年次では、卒業研究・制作において4年間の学修を集大成するとともに、実社会において必要な課題解決能力やデザイン分野で活躍できる力を修得します。

2. 教育方法

実習形式の授業を多く取り入れ、グループワークや学生自ら学ぶアクティブラーニングの方法を取り入れた教育を実践します。

3. 教育評価

学修成果の評価は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。シラバスでは各授業科目の到達目標を示し、予め定められた成績評価方法により筆記や実技試験等を行い、科目到達度の評価が行われます。なお、コミュニケーションデザイン、フィールド研究等でルーブリック評価を導入します。

・健康栄養学科（令和4年度以降入学生）

1. 教育内容

1年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、4年間の学修の基盤となる基礎教育科目を学ぶとともに、食と健康に関する基礎学力を身に付けます。

2年次では、食と健康に関する専門知識を高め、コース別に将来の目標に沿った専門性を身につけることにより、専門職に必要な資質を高めます。

3年次では、各コースの専門性を深めるとともに、臨地実習等を通じて専門職に必要な体験と知識の応用力・実践力を身に付けます。

4年次では、各コースの専門性を卒業研究等につなげ発展させることにより、食と健康に関連する多様な分野で社会に貢献できる管理栄養士としての総合力を身に付けます。

2. 教育方法

教育内容や学生の修得度に合わせて講義科目、演習科目、実験・実習科目を組み合

せて段階的、体系的な教育を行います。1 年次後期からコース別の学びに加え、3 年次からは臨地・校外実習において学内指導教員と臨地指導者から助言・指導を受けながら学修を深めます。

科目と科目の関連性や内容の順序性を表したカリキュラムマップを作成・提供することで、学修の順序や関連性を認識し、学生自らが学修の振り返りをできるようにしています。

複数の専門科目にまたがって思考・判断する力及び問題を解決する力を身に付けるため、3 年、4 年次に総合力を育成するための科目を設けています。

国家試験受験対策として、講座や模擬試験等を実施します。

3. 教育評価

学修成果の評価は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。シラバスでは各授業科目の到達目標を示し、予め定められた成績評価方法により筆記や実技試験等を行い、科目到達度の評価が行われます。

・管理栄養士養成（令和3年度以前入学生）

1. 教育内容

1 年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、4 年間の学修の基盤となる基礎教育科目を学ぶとともに、食と健康に関する基礎学力を身に付けます。

2 年次では、食と健康に関する専門知識及び専門職に必要な資質を高めます。

3 年次では、臨地実習等を通じて専門職に必要な体験と知識の応用力・実践力を身に付けます。

4 年次では、卒業研究等を通じて人々の健康の保持増進に努め、社会に貢献できる管理栄養士としての総合力を身に付けます。

2. 教育方法

教育内容や学生の修得度に合わせて講義科目、演習科目、実験・実習科目を組み合わせ、段階的、体系的な教育を行います。特に、臨地・校外実習は学内指導教員と臨地指導者から助言・指導を受けながら学修を深めます。科目と科目の関連性や内容の順序性を表したカリキュラムマップを作成・提供することで、学修の順序や関連性を認識し、学生自らが学修の振り返りをできるようにしています。複数の専門科目にまたがって思考・判断する力及び問題を解決する力を身に付けるため、3 年、4 年次に総合演習Ⅰ・Ⅱの科目を設けて総合力を育成します。国家試験受験対策として、講座や模擬試験等を実施します。

3. 教育評価

学修成果の評価は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。シラバスでは各授業科目の到達目標を示し、予め定められた成績評価方法により筆記や実技試験等を行い、科目到達度の評価が行われます。

・児童学科

1. 教育内容

1 年次では、全学共通科目により社会人基礎力や人間・社会関係力を養いつつ、小学校・幼稚園教員及び保育士に必要な基礎的知識と技能を身に付けるとともに、保育の現場を体験します。

2 年次では、小学校教員を目指す児童教育学コースと保育士や幼稚園教員を目指す保育学コースにおいて教育・保育に関する基本的理論や教科・領域の専門的知識と技能を修得します。また、保育学コースでは、観察参加実習を通じて基礎的な実践的指導力を身に付けます。

3 年次では、各教科・領域の指導法を学修するとともに、教育・保育の現場での実習及び学習ボランティアや子育て支援ボランティアを通じて実践的指導力を身に付けます。

4 年次では、卒業研究や教職・保育実践演習を通じて情報収集や分析力、表現力、

コミュニケーション力を養うとともに、教育・保育実習で実践的指導力を高めま
す。

2. 教育方法

教育内容や学生の理解度に合わせて講義科目、演習科目、実習科目の組み合わせに
より授業を行います。特に授業では、次のような教育方法上の工夫を行います。

- ①授業内容の問題形式による提示、
- ②教育や保育の実際を知るためのDVD教材の活用
- ③子どもとの体験・活動の提供
- ④学生による意見発表及び討論の時間の確保
- ⑤出来るだけ学生にとって身近に感じられる事例の提示
- ⑥学修記録や振り返りシートなどのeポートフォリオの活用

3. 教育評価

授業態度（事前準備や積極的な取り組み）、提出物、レポートの内容、筆記試験の
成績などを通して専門的知識や技能の修得状況を総合的に評価します。また、演習
や実習科目では、作品や演奏、模擬授業・保育、学習指導・保育指導案の作成など
実践的指導力を重点的に評価します。小学校・幼稚園教諭及び保育士を養成するた
めに知識や技能、理解力だけでなく、授業態度や意欲、表現力、コミュニケーション
力などの人間性及び実践的指導力といった多面的な観点から評価を行います。

●看護学部

・看護学科

1. 教育内容

1年次では、看護学を学ぶものとして必要な人間と健康に係る基礎知識と看護の基
本技術を身に付けるとともに、全学共通科目及び人間と健康、環境と健康、看護の
基本といった看護の基礎となる科目を配置しています。臨地実習では生活者や患者
の環境の理解とコミュニケーション力を基本に対人援助技術の基礎的な知識・技術
を修得できるようにします。

2年次では、看護に必要な基礎的知識・技術の修得を可能にするために、専門基礎
科目を学修するとともに、健康の保持・強化・修正・保護に関する知識と技術を修
得できる科目を配置しています。臨地実習では、コミュニケーション力を活用し、
患者の権利を尊重することや情報の取扱いに関する理解のもとに具体的援助方法
を体験し、看護の役割について考えられるようにします。

3年次では、病院や地域で生活する様々な健康レベルの人々への援助について演習
を通して学び、領域別看護学実習において看護の専門性を探究し、各専門領域にお
ける看護の知識と技術を修得するための科目を配置します。特に、超高齢社会に向
けた地域包括ケアに対応できるように、各専門領域の臨地実習では、コミュニケー
ション力を深化させ、社会における看護の役割を自覚し、多職種との連携について
関心を深め、チーム医療の重要性についても気づけるようにします。

4年次では、看護学総合の科目である「総合実習」、「応用看護技術」、「看護研
究」において、4年間で修得した専門的な知識・技術・思考力とプレゼンテーショ
ン力や自己教育力を統合させ、看護者としての専門性と自立性を養うとともに、看
護学を生涯学習の視点で捉え、社会に貢献できる力を身に付けます。

2. 教育方法

看護学の学修は、講義、演習、実習と深化させ、実際の対象者との関わりを通して
具体的に援助のあり方について考えられるように工夫します。

学生自身による主体的な学修を支援するために、講義、演習、実習の全ての段階で、
事前学修、主体的な実践、実践後のリフレクションと事後学修を取り入れます。

講義、演習科目の多くで、高機能シミュレーションモデル人形等のICT機器の活
用やアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学修になるように計画、実施して
います。

各領域の学内演習と臨地実習では、基礎看護技術の経験状況と到達段階を自己評価

できるように、共通の看護技術体験記録の用紙を用いて記録し、学内演習と臨地実習に関わる教員の誰もが確認できるようにポートフォリオを活用しています。

看護師免許、保健師免許、助産師免許取得のための国家試験受験対策として、合格に必要な知識が修得できているかどうかを確認するための模擬試験や各領域の講座を計画、実施します。

各学年に少人数形式で実施する科目を配置し、学生一人ひとりに応じた学修支援を行います。

ポートフォリオにより学生の看護職者のイメージを明確にし、それを各学期の面接で活用して学修への取り組みの動機づけに用いています。

3. 教育評価

各学年の前期・後期の成績発表に合わせて、チューター教員は学生とともにGPA値を確認し、一定レベルを満たしていない場合は、個別に自己の学修状況を振り返る機会にします。

各学年の後期終了時には、自己教育力シートへの記載状況、ポートフォリオを用いた学生個々の取り組みの振り返り、各領域で実施している看護技術経験状況を総合的に評価します。

4年間の学修成果は、卒業に必要な単位の修得状況と、「応用看護技術Ⅰ（看護技術の統合）」及び「応用看護技術Ⅱ（臨床判断能力の統合）」を通じた基本的な知識と臨床判断能力と卒業時基礎看護技術到達状況、「看護研究Ⅰ（計画書作成）」及び「看護研究Ⅱ（論文作成）」等で総合的に評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/admission-policy/>)

(概要)

●文学部

・日本文学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 日本文学・日本文化の専門分野に関心があり、さらにその知識・技法を身に付け、社会で活かしたいという意欲のある人。
4. 文学作品を通して文学の持つ魅力を探究し、日本文化の歴史と伝統及び豊かな表現力を学び、新しい知識と表現法を拓くことを目指す人。

・書道文化学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 書道文化の幅広い分野に関心があり、さらにその知識・技能を磨き、社会で活かしたいという意欲のある人。
4. 書道文化に関する文字資料を学び、書の技法・歴史・理論を総合的に身に付けることを目指す人。

・国際文化学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 英語などの外国語に関心があり、英語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けており、それをさらに高める意欲と態度を有する人。
4. 世界の様々な国や地域の文化・歴史、諸課題に関心がある人。

5. 留学やその他の国際交流行事を通して、自ら積極的に異文化理解を深めようとし、また、日本あるいは地域の文化や歴史を世界に伝え、国際化に貢献する意欲と態度を有する人。

●経営情報学部

・経営情報学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 企業マネジメントについて学び、ビジネスの世界で即戦力となるためのスキルを身に付けたい人。
4. 商品の生産から販売までの流通マネジメントを学び、マーケティングに関する情報を活用できるようになりたい人。
5. 地域政策の企画・立案に必要な知識や公共経営のあり方を学び、地域に貢献できる力を身に付けたい人。
6. スポーツ関連ビジネスの専門的な知識を学び、スポーツに関する多様なサービスを企画、運営及びアドバイスができる力を身に付けたい人。

・メディア情報学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. eビジネスの仕組みを理解し、ネット広告やSNS集客に関心があり、ICTを活用してビジネス社会で活躍するための専門知識・技術を身に付けたい人。
4. メディアデザインの仕組みを理解し、ビジネスや経営に役立つデジタルコンテンツの制作・活用に関心があり、映像メディアのスキルを身に付けたい人。
5. 情報システムの仕組みを理解し、コンピュータやインターネットの活用に関心があり、情報リテラシーや情報処理技術のスキルを身に付けたい人。

●生活科学部

・人間生活科学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 心理学、カウンセリング分野に関心があり、コミュニケーション能力やカウンセリングスキルを身に付け、企業や地域社会において、または学校や保健医療現場などにおいて、公認心理師や養護教諭として活躍したいと考えている人。
4. デザイン分野に関心があり、その知識や技術を修得し、美的で創造的な生活空間の企画、提案を行いたいと意欲的に考えている人。

・健康栄養学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 食と健康に関心があり、さらにその知識・技能を身に付け、社会で活かしたいと意欲がある人。
4. 多様な分野において食と健康に貢献する栄養士、管理栄養士として、自ら考えて行動しようとする学習意欲や目的意識を持っている人。

・児童学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 小学校・幼稚園・保育所・認定こども園で、教育や保育に携わり、子どもと関わる仕事に関心を持ち、さらにその知識・技能を身に付けて社会で活かしたいという意欲がある人。
4. 子どもを愛し、教育者や保育者に求められる豊かな人間性と規範意識を保持しながら、教育や保育・福祉における様々な課題に気づき、その解決のために主体的・協働的に取り組む意欲がある人。

●看護学部

・看護学科

1. 高等学校の教育課程の内容を幅広く修得している人。
2. 適切な思考力・判断力・表現力をもとに、主体性を持って自らの能力を高めようと努力し、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けている人。
3. 地域の保健・医療・福祉に貢献しようとする強い意志と、喜びや苦しみを他者と分かちあえる優しい心を持っている人。
4. 日進月歩の医療や激変する社会に対応しうる知識と技術の修得のため、常に努力を惜しまず、生涯にわたって学び続けたいと考えている人。
5. サークル活動やボランティア活動などに積極的に参加し、他者と協調できる社会性を備えた人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	11人	3人	9人	1人	0人	24人
経営情報学部	—	14人	6人	3人	1人	0人	24人
生活科学部		18人	15人	6人	6人	0人	45人
		9人	5人	12人	8人	0人	34人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		179人					179人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.shikoku-u.ac.jp/education/researcher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、学生満足度向上と教員の教育力向上を目指し、実態に即したFD活動を実施できるように計画的に取り組んでいる。主な活動内容は次のとおりである。</p> <p>①授業公開：模範的な授業を公開し、参観して得られた知見はティーチング・ポートフォリオに反映させる。</p> <p>②授業評価：毎期2回の授業評価を実施。1回目（5回目授業終了時実施）、2回目（期末実施）の結果をティーチング・ポートフォリオに反映させ、今後の授業改善に繋げる。さらに、授業評価結果の有効的な活用方法を検討し、実施する。</p> <p>③研修会：効果的な研修活動内容を検討し、実施する。</p> <p>④大学院FD活動：各研究科のFD活動に加え、大学全体で取り組むFDのテーマ、実施方法等について検討し、実施する。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	115人	111人	96.5%	472人	455人	96.4%	6人	4人
経営情報学部	145人	185人	127.6%	584人	691人	118.3%	12人	1人
生活科学部	220人	215人	97.7%	928人	895人	96.4%	14人	1人
看護学部	100人	99人	99.0%	410人	411人	100.2%	5人	6人
合計	580人	610人	105.2%	2394人	2452人	102.4%	37人	12人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	113人 (100%)	7人 (6.2%)	89人 (78.8%)	17人 (15.0%)
経営情報学部	151人 (100%)	5人 (3.3%)	132人 (87.4%)	14人 (9.3%)
生活科学部	236人 (100%)	11人 (4.7%)	214人 (90.7%)	11人 (4.7%)
看護学部	106人 (100%)	3人 (2.8%)	100人 (94.3%)	3人 (2.8%)
合計	606人 (100%)	26人 (4.3%)	535人 (88.3%)	45人 (7.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：四国大学大学院、鳴門教育大学大学院、徳島大学大学院 主な就職先：徳島県教育委員会、高知県教育委員会、JA 徳島厚生連医療センター、 独立行政法人国立病院機構、徳島県病院局、兵庫県病院局、徳島市、 藍住町、石井町、阿波銀行、徳島大正銀行、日亜化学工業株式会社、 日清医療食品				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	128人 (100%)	106人 (82.8%)	11人 (8.6%)	8人 (6.3%)	3人 (2.3%)
経営情報学部	159人 (100%)	143人 (89.9%)	5人 (3.1%)	10人 (6.3%)	1人 (0.6%)
生活科学部	244人 (100%)	224人 (91.8%)	6人 (2.5%)	12人 (4.9%)	2人 (0.8%)
看護学部	103人 (100%)	90人 (87.4%)	1人 (1.0%)	9人 (8.7%)	3人 (2.9%)
合計	634人 (100%)	563人 (88.8%)	23人 (3.6%)	39人 (6.2%)	9人 (1.4%)
(備考) その他：除籍、転出					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>毎年度始めに、すべての授業科目の概略、到達目標、授業計画詳細、評価方法、授業時間外の対応（オフィスアワー）などについて、Web シラバスとして作成し、インターネットを介して学生に周知するとともに、学外の方からの参照を可能とし社会に公表している。また、年に2回実施している「学生による授業評価」（授業改善アンケート）において、「シラバスに沿って適切に授業が行われたか（時間配分、講義内容・目的など）」が設けられており、このアンケート結果は担当教員にフィードバックされ、授業改善に役立てられている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>学則で大学の目的及び使命を定め、これに基づく各学部の教育目標を明示している。また、これらに基づく各学科の学位授与方針をディプロマポリシーとして定め、履修要綱の中に明示するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。また、学則及び学業成績評価規則に、成績評価や卒業認定の基準を規定し、その内容を履修要綱の中に明記するとともに、大学ホームページ上に掲載し社会に公表している。</p> <p>これらの方針や基準は、履修要綱を通じて全教職員に、また学生に対しては学期始めに実施されるオリエンテーションや、チューター（指導教員）、学生サポートセンター等による履修指導等の場において周知している。そして卒業認定は、各学部教授会と評議会において、この方針や基準に従って審議・決定している。また、教育改革推進委員会、学部教授会、学部教員会議等において、これらの方針や基準の検証を行っており、検証の結果、見直しが必要と判断された場合は、その都度適切な見直しを行っている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	124 単位	有	185 単位
	書道文化学科	124 単位	有	185 単位
	国際文化学科	124 単位	有	185 単位
経営情報学部	経営情報学科	124 単位	有	180 単位
	メディア情報学科	124 単位	有	180 単位
生活科学部	人間生活科学科	124 単位	有	192 単位
	健康栄養学科 (R4 年度以降入学生) 管理栄養士養成課程 (R3 年度以前入学生)	124 単位	有	192 単位
	児童学科	124 単位	有	192 単位
看護学部	看護学科	125 単位	有	185 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/syugaku/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.shikoku-u.ac.jp/education/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/kyoiku/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	680,000 円	280,000 円	312,000 円	その他に含まれる費用 実験実習・図書費 施設費 その他に含まれる費用 実験実習・図書費 施設費 学科等特別費
	書道文化学科	680,000 円	280,000 円	392,000 円	
	国際文化学科	680,000 円	280,000 円	352,000 円	
経営情報学部	経営情報学科	680,000 円	280,000 円	412,000 円	
	メディア情報学科	680,000 円	280,000 円	432,000 円	
生活科学部	人間生活科学科	680,000 円	280,000 円	412,000 円	
	健康栄養学科 (R4 年度以降入学生) 管理栄養士養成課程 (R3 年度以前入学生)	680,000 円	280,000 円	432,000 円	
	児童学科	680,000 円	280,000 円	392,000 円	
看護学部	看護学科	(1 年～3 年生) 920,000 円 (4 年生) 880,000 円	280,000 円	432,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学修支援センターでは、学生の居場所としての自習室（ラウンジ）機能をはじめ、個別または少人数でのオンデマンドな指導、各種学修相談や、全学対象とした高大接続キャリアアップ支援プログラム、新入生を対象とした学習サポートプログラム、検定試験の運営・実施等、幅広い学修支援を行っている。また、学修支援センター別室として、平成24年度にスタディールームを開設、平成29年度にアクセシビリティルームを開設した。スタディールームは、静かで落ち着いた雰囲気が好きな学生さんのためのもうひとつの学修支援センターとして開室している。アクセシビリティルームでは、専任の障がい学生支援コーディネーターが常駐し、本学における合理的配慮の提供体制を整備している。</p> <p>また、本学への入学予定者で、日本学生支援機構に対して「給付型奨学金」の申し込みを行った者（候補者として決定した者を含む）は、「大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免の対象者の認定に関する申請書」を提出することで、入学金および前期授業料の徴収を大学の指定する期日まで猶予している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

(1) 学生の就職への意識の高揚を図り、学力・就職基礎力を高めるため、5つのプログラムや情報提供を通して支援を行っている。

①就職基礎力プログラム：就職活動の基本的な内容など、社会人基礎力の向上を図ることを目的としている。

・就職ガイダンス、専門職ガイダンス、エントリーシートガイダンス、グループディスカッション、集団面接対策講座、SPI対策講座、年間を通じた就職相談・面接・添削指導

②就職実践力プログラム：実際の職場体験を通して就職に向けての実践力を養うことを目的としている。

・インターンシップ研修（職場体験）
・自由応募制インターンシップ
・四国大学インターンシップ

③適職発見プログラム：学内に県内企業を招き、面談等を通して企業への理解を深め、適職発見の機会とすることを目的としている。

・学内企業研究会事前セミナー
・学内企業研究会

④就職支援力プログラム：就職への理解と協力、及び研修等による就職支援力の向上を目的としている。

・教職員の職場訪問（開拓）
・保護者対象就職講演会

⑤ジョブハンティングデータベースによる情報提供：ジョブハンティングシステムの導入による求人情報のデータベース化やマナビコースの活用による情報の提供など、学生支援に役立っている。

(2) 学生が社会人・職業人として自立できる力、即ち「就業力」の育成に焦点をあてた教育を推進している。(キャリアデザインを軸とする就業力の育成)

①キャリア教育カリキュラムの実施と検証：「キャリア教育」の視点から到達目標や評価基準を設定し、キャリア形成科目として教育課程に位置づけ実施している。

②キャリア相談センターの開設：外部のキャリアカウンセラーや公認心理師などの相談員をはじめ、教職員も含めた相談体制の充実を図っている。

③就業力育成セミナーの開催：スキルとマインドの両面からキャリア形成を行うための講演会、セミナーを開催し、段階的に内容をステップアップし、自信をもって社会に出ることができるよう支援している。

④四国大学ジョブセミナーの開催：企業の経営者・人事担当者に講演を依頼し、早い段階から学生の職業観や勤労観を育て、キャリア形成や就業への意欲を喚起している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生が健康に対する関心・理解を深め、自分自身で健康の保持・増進に向けた行動がとれるよう、保健管理センターを設置し、下記の支援をしている。

- ①定期及び臨時の健康診断
- ②各種健康相談
- ③応急処置と静養
- ④医療機関への案内
- ⑤学内環境衛生活動及び感染症の予防
- ⑥各種計測及び検査
- ⑦健康診断証明書の発行

学生生活上の心理的相談に応じるため、学生相談室を設置し、以下の相談に応じている。相談員は学生相談室長のほか、学内外の公認心理師・臨床心理士が担当している。

- ①修学上の相談
- ②対人関係の相談
- ③性格に関する相談
- ④精神衛生に関する相談
- ⑤ハラスメント相談
- ⑥発達障害学生の相談
- ⑦ジェンダーに関する相談
- ⑧保護者からの相談
- ⑨学生に関する教職員の相談
- ⑩専門機関への紹介
- ⑪精神衛生に関する予防活動

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F136310110255
学校名	四国大学
設置者名	学校法人四国大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		432人	408人	456人
内 訳	第Ⅰ区分	259人	251人	
	第Ⅱ区分	111人	95人	
	第Ⅲ区分	62人	62人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				456人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-
訓告	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	26人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	17人		
計	30人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。